



3号  
MAY. 16<sup>TH</sup>  
2018

# 電子機械科 NEWS

Systems Engineering Mechanical & Electrical

はれたり ふったり  
青田に  
なった  
山頭火

明治(3.5間×5間)から 教室の広さは 63m<sup>2</sup>

●今月13日(日)から1学期中間試験がはじまった。初日1限目電子機械科2年に試験監督に行く。1クラス40人定員で設計された教室だが試験になるといつも狭く感じる。

教務部からの受験心得には「机の中は空に」「荷物は教室の前 or 後」「携帯は電源 OFF でカバンの中」そんな訳で、整理の悪いクラスでは生徒の荷物は教室の前後に氾濫している。

●その広さは団塊の世代が学んだ時も同じで、当時はこの広さに50人が肩をならべて勉強をし、試験中は意識しないでも隣の友人の答案用紙が覗けたという話を聞いたことがある。

●さて、この広さ(7×9)は昭和25年(1950)に作られた「鉄筋コンクリート造り校舎の標準設計」に因るものらしい。おまけに小学校から高校までがこの基準つまり同じ大きさということである。

文科省のHPを閲覧してみると天井の高さの項目はあるが広さについてはあまりなく、この昭和25年の基準がいまも踏襲(1.6m<sup>2</sup>/人)されているのかと思うとがっかりするところがある。

●平成26年報告の「高等学校施設設備指針」(普通教室)では

(1) 多様な学習形態に応じた机、家具などの配置が**可能な面積**、形状等とするとともに、生徒の生活の場としてふさわしく生徒にとって**魅力ある場**として計画することが重要である。

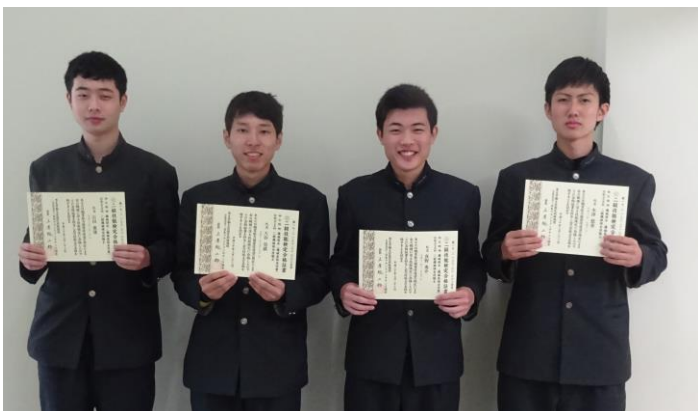
(2) 十分な面積の掲示板を設けることが重要である。

●「可能な面積」「魅力ある場」は、具体的にどのようなことなのか私には分からないが、いまのように、教室後ろにはロッカーが並び、黒板前にはプロジェクターがある状態では30人位が丁度いいように感じている。



電子機械科2年 試験風景

## 国家技能検定機械保全2級合格



●試験は昨年12月に山口で行われ、発表が春休みの3月23日。本校からは5名が受験。本校の合格率は80%、全国の平均は高校生一般を合わせて41.1%である。

●機械保全技能士になれば工場にある機械装置のメンテナンスや保守を行う業務に携わることができる。

■合格者はいずれも新3年生。  
左から石田・大谷・真野・水津くんの4人